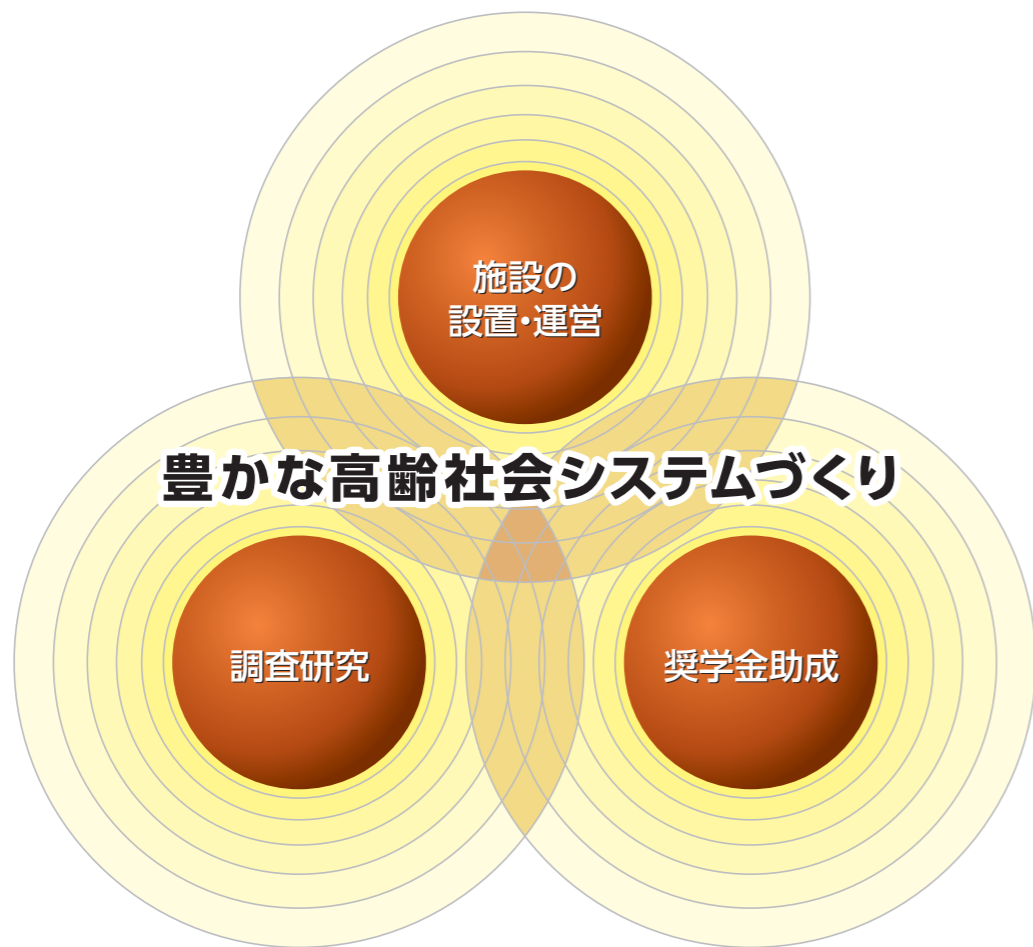


高齢社会の望ましいシステムを求めて、 調査研究活動およびモデル事業を実践。

高齢者の健康・生きがい・安心のための施設の設置・運営

平成4年4月にウェル・エイジング・プラザ「奈良ニッセイエデンの園」を、平成9年3月にウェル・エイジング・プラザ「松戸ニッセイエデンの園」を開園。両施設とも厚生労働省の施策『ふるさと21健康長寿のまちづくり事業(通称、WAC事業)』を具体化したものとして、認定を受けています。地域自治体との連携や住民との交流、周辺地域への在宅関連拠点の設置など、地域に開かれ、地域に根ざした活動を推進しています。



高齢者の健康・生きがい・安心に関する調査研究

上記施設運営を通じた高齢者の健康増進・生きがいづくりに関することや、介護を中心とした福祉サービスのあり方など、高齢者に関するテーマを多面的にとらえ、調査研究を実施しています。また、その成果を様々な形で発信しています。

介護福祉士等養成のための奨学金助成

超高齢社会を迎えて、介護に関する専門知識や技術を兼ね備えた人材がますます求められています。当財団では、介護福祉士(平成元年～)、理学療法士・作業療法士(平成6年～)を目指す学生への奨学金助成を行っており、奨学生は累計600名を超えました(平成28年4月現在)。

ふるさと21健康長寿の まちづくり事業(WAC事業)を展開。

高齢社会の到来が目睫の間に迫った平成元年度、厚生省(当時)は、『ふるさと21健康長寿のまちづくり事業(通称、WAC事業)』をスタートさせました。『高齢者保健福祉推進十か年戦略(通称、ゴールドプラン)』の一環として、高齢社会に対応した健康・福祉の実現を「まちづくり」という視点でとらえて推進しようとするもので、地域社会の中に、高齢者にとって必要な健康・生きがい・安心その他関連する各種機能を総合的・計画的に整備していこうとするものです。

※WAC … Well Aging Community の頭文字。



平成3年版「厚生白書」

この事業は、平成元年6月に施行された「民間事業者による老後の保健及び福祉のための総合的施設の整備の促進に関する法律」に基づくものです。「疾病予防運動センター」「高齢者総合福祉センター」「在宅介護サービスセンター」「有料老人ホーム」の4つの施設(「特定民間施設」と言います。)を一体的に整備する場合に、厚生労働大臣の認定を受けることができます。



当財団はこの施策にいち早く取り組み、最初のモデル事業施設であるウェル・エイジング・プラザ「奈良ニッセイエデンの園」は平成2年10月17日付で、全国最初のWAC事業認定施設となり、先駆的まちづくりの実践例として「厚生白書」にも取り上げられました。更に、当財団の第2号施設であるウェル・エイジング・プラザ「松戸ニッセイエデンの園」は平成6年12月15日付で、全国2番目のWAC事業認定施設となりました。

